

ひまわり新聞

ひまわり甲子園 特集号

6



ひまわりのような参加者の笑顔が輝いた第2回ひまわり甲子園=2014年3月8日、福島市

今年も川俣町の山木屋太鼓 チーム鴉の演奏で開会

二〇一四年三月八、九日に福島市で第二回目となる「ひまわり甲子園全国大会2014」が開催されました。全国、福島県内から昨年を上回る二百人以上の方々が参加し、全国と福島のきずなを深めました。

福島市のポリテクセンター福島イベントホールにて、昨年に引き続き第二回目となるひまわり甲子園全国大会2014が開催されました。ステージ上に、福岡県の有限会社グリーンピース磯浜の磯濱玄海さんと学生ボランティアが設置した四十本の大きなひまわりが参加者を出迎えました。

プロジェクト参加者による甲子園までのカウントダウンの映像が「あと0日」を映すと、福島県川俣町で活動が続けてきた山木屋太鼓のチーム鴉が勇壮な演奏でオープニングを飾りました。川俣町は原発事故後、一部が計画的避難区域に入っており、メンバーは現在、地域外で生活しています。二十代の若者四名によるダイナミックな太鼓演奏に会場は熱気に包まれました。

その後、大和田勲監事の開会あいさつ、来賓紹介があり、甲子園ならではの選手宣誓がありました。今年の選手宣誓は、福島県立会津学鳳高等学校の一年折笠亮さん。福島の大地と、全国の皆さんの心に、希望の花を咲かせ続けることを宣誓しました。

応援メッセージ



メルマガ登録



空メール送信で登録できます

NPO法人 チームふくしま
福島ひまわり里親プロジェクト

TEL.024-529-5153 HP:<http://www.sunflower-fukushima.com/>

ひまわり甲子園 特集



よつば保育園の園児にひまわりの種を贈呈する参加者



多くの人が津波で犠牲になった南相馬市の海岸で静かに手を合わせる参加者

今年も浜通りでバスツアー開催 奇跡の一本松や旧警戒区域を視察

甲子園二百目の九日は、ひまわりバスツアーを開催。全国の里親さん三十五名が参加し、津波被害の残る沿岸部を訪問しました。南相馬市鹿島区では、避難場所に津波が到達してしまい、多くの方が亡くなった鹿島球場や、塩害被害や大津波から一本だけ残った奇跡の一本松を見学しました。さらに、福島第一原子力発電所の事故の影響で、警戒区域に指定

(現在は避難指示解除準備区域)され、誰もいなくなった町、小高区の駅前も訪れました。その後、南相馬にある高見公園に立ち寄り、よつば保育園の園児に種を寄贈。子どもたちは全国の皆さんから種をたくさんもらって、満面の笑顔。

ツアーの最後は、福島県保原町のIMO JAPANの佐藤博章さんによる焼き芋

にホッと一息をついて解散。震災がまだ続いているという福島の現状を知る一日となりました。

来賓の「働くことの喜びはみんなデザインニーストアで教わった」の著者、加賀屋克美さんによる加賀屋ラーメンや、半世紀続いた福島の名店(現在は閉店中)志賀だんごやの餅など、たくさんの料理がふるまわれました。

また、この日のためにひまわり餃子も登場。郡山市にある障がい者の自立と就職を進める社会福祉法人にんじん舎の会が、福島で栽培されたひまわりの種から絞ったひまわり油で作った餃子は、参加者からも大好評。廃油は、二本松市にある菊の里で、こちらも同じく障がい者の仕事としてエネルギーに変換して、バスを走らせるために再利用されます。

福島市で活動するシンガーソングライターのせいやんによる「ひまわり」の歌や、甲子園に引き続き行われた山木屋太鼓チーム鴉の演奏、長野県の里親さんである和田弘子さんによるひまわり紙芝居の読み聞かせもあり、会場は温かな空気に包まれました。

また、遠野緑峰高校の生徒は、自分達が作ったドリウムキヤッチャーを販売。売上分を本プロジェクトに寄付しました。

震災直後、多くの方が避難で通った道をバスで実際に通りました。人が住めない街の様子、駅前の駐輪場の自転車も当時のまま三年間止まっている状況を見て、言葉が出ませんでした。しかし道端には、誰かが植えた花が咲いていました。南相馬では、住民の皆さんの表情に笑顔も見られました。福島ひまわり里親プロジェクトという希望の種まきが、確実に未来を太陽のように照らしているはずだと思えました。これからも福島に皆さんとつながっていきます。そして今回、実際に見てきたこと、そのときに思ったことを生徒達へ伝えたい。このような機会を企画してくださり、ありがとうございました。

立命館中学校・高等学校
教諭 清田祥一郎さん



GOOD NEWS
ひまわりバスツアーの感想が届きました！

長岡京市立長岡第四小学校
校長 太田 伸彦さん

バスツアーでは車窓から福島の惨状、復興の難しさを感じました。同時に全国と福島がつながり始めていることを実感しました。
3・11の全校集会で子ども達に語り、これを機に福島との絆を深めようと心に誓いました。
最後に本校児童が昨年末、人権週間に応募した標語を紹介させていただきます。
〜復興を 目指して咲いた 夏の花〜

ひまわり甲子園 特集

全国の参加者による発表

最初のプレゼンターは、岩手県立遠野緑峰高等学校の生徒四名。茎の繊維でインディアンのお守りであるドリウムキヤッチャーを開発しました。郷土品として販売し、被災地支援に役立てています。原価や粗利など数字も絡めた、素晴らしい発表に会場からは驚きの声があがりました。

三組目は、「山形ひまわり里親になつちやおうプロジェクト」。福島からの避難者も多い、山形県のグループが地域の部代表で発表しました。継続することを大切に、震災を忘れないという想いで取り組んでいます。ソーシャルネットワークサービスのFacebookを活用しており、普段は顔を合わせる機会がないメンバーですが、甲子園をきっかけに集まり発表内容をまとめ、チームの「きずな」を深めました。

最後は、熱心な里親さんの長野県の山田雅彦さんと保育園の先生の和田弘子さん、南牧村立南牧南小学校の牧野直樹先生で、三人はひまわりキャラバンとして各地の学校などで講演会を主催し、プロジェクトの輪を広げました。南牧村立南牧南小学校では、特別学級の生徒が、福島を想いひまわりを育て、地域の博物館前に置いてもらいました。育てた生徒たちは休みのたびに通り、来館する人たちにプロジェクトのひまわりが持つ意味を伝えました。



ひまわりの歌を歌う和の皆さん

四組目は、中学校の部代表の山口県光市立の山口県光市立島田中学校。「荒れた学校」と言われていた同校では、生徒一人ひとりが福島に向けてたメッセージプレートと共に一輪のひまわりを咲かせました。体育祭でのひまわりの人文字や、文化祭での復興支援ソング「花は咲く」の合唱など学校行事として取り組みました。

岡山県「晴れの国発 福島ひまわり里親プロジェクト」、高根県「わくわく出雲」、広島県「福島ひまわり里親プロジェクト」を応援する会」など全国十団体が種を寄贈。福島県内の団体を代表して、

エンディングは今年も種のバック詰めなどを行なっていたにいたるNPO法人和の全利用者がステージ前に登場。福井県鯖江市立立待小学校の皆さんが作詞したひまわりの歌を参加者全員で合唱し、感動の甲子園が閉幕しました。



学校・家族・地域が一体となった取り組みを発表する猪苗代養護学校の生徒



廃棄される茎を活用した支援の様子を話す岩手県立遠野緑峰高校の生徒

今回の甲子園の会場内には、ブースで全国の里親さんや福島県内の参加団体の取り組みの展示が行われました。全国の里親さんを代表して「東京都昭島市立多摩中学校」、「広島県修道大学ボランティアサークルR.A.P.D.O.R.T.」、「千葉県ガールスカウト北総地区」、「東京都府長岡京市立長岡第四小学校」、「大分県竹馬会」、福島県内からは、「裏磐梯観光協会」、「福島民報社」が出席。「オランダ福島県人会」や「ロッテルダム日本人学校」の皆さんからの大きな応援の旗も入り口付近に展示されました。「海外においても自分たちができる支援をしていこう」とひまわりを通して復興支援に取り組むことになりました。しかし、検疫があるため、プロジェクト側も海外に種を送ることはできません。そこで、ひまわりを育てている人を応援する旗を作成。「福島のために、ひまわりを育てている人たちに、私たちの分も頑張って育てて欲しい」という願いを込めました。

海外からも応援メッセージが届きました

海外からも応援メッセージが届きました。海外においても自分たちができる支援をしていこうと、ひまわりを通して復興支援に取り組むことになりました。しかし、検疫があるため、プロジェクト側も海外に種を送ることはできません。そこで、ひまわりを育てている人を応援する旗を作成。「福島のために、ひまわりを育てている人たちに、私たちの分も頑張って育てて欲しい」という願いを込めました。



オランダロッテルダム日本人学校から寄せられた応援メッセージ



今年も感動をありがとうございました

笑顔と涙と歌で いっぱい!

第2回ひまわり甲子園では、今年も参加した里親さんのたくさんの笑顔が咲きました。勇壮な太鼓の演奏、感動に満ちた活動紹介、そして声を合わせた温かな合唱で、会場は感動に包まれました。

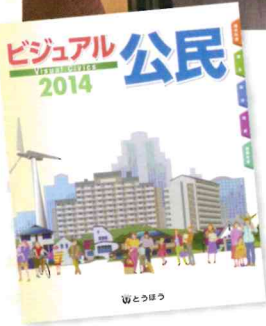


①今年も勇壮な山木屋太鼓で開幕 ②地元の企業福島交通も活動を発表 ③山口県島田中学校はスライドを使って活動紹介 ④里親さんから種の贈呈 ⑤選手宣誓をする会津学風の折笠さん ⑥種を受け取り、笑顔で記念撮影 ⑦感動がこみ上げ、涙する参加者 ⑧和(なごみ)の利用者の合唱で温かなエンディング ⑨山形ひまわり里親になっちゃんプロジェクトの発表 ⑩長野の子どもたちからのメッセージを紹介

福島ひまわり里親プロジェクトが 教科書に掲載されました



福島の広野中を訪問し、種を手渡す京都の広野中の先生



掲載が決まった「ビジュアル公民 2014」(東京法令出版)

二〇一四年度から使われる中学校公民の教科書副読本「ビジュアル公民2014」に見る、解く、納得！公民資料」(ともに東京法令出版)に、本プロジェクトが掲載されました。京都の広野中学校と福島の広野中学校がひまわりの種を通じて交流を深める様子が紹介されています。

福島県と京都府にあるそれぞれの広野中学校は、震災後、校名が同じこともあり、交流を深めてきました。この夏、京都の広野中は、宇治市にあるのぞみ鍼灸整骨院の呼びかけでプロジェクトのひまわりを購入。市内の小中学校と連携して育てま

した。二〇一三年十二月六日、福島の広野中へ、京都から二名の先生が「きずな」の種、一万二千粒を持参。福島と全国の学校のつながりが生まれています。

堀内孝勇理事のコメント

このたび、中学校で使用される副読本に、福島ひまわり里親プロジェクトの記事が掲載されることになりました。ちょうど私の息子も、この春、中学校へ入学するタイミングでしたので、とてもうれしく感じております。全国と福島がつながったこの活動が、さらに多くの子どもたちに広がればと考えております。

私たち福島県民は、震災によって多くのものを失いました。しかし、この活動に参加することで、震災によって得たものに気付くことができました。未来を担う子どもたちの心に、人を想う優しさが芽生えるきっかけになれば幸いです。

里親のみなさんに感謝申し上げるとともに、今後とも明るい未来を築くための活動にご協力をお願い申し上げます。

福島ひまわり里親プロジェクト



NPO法人チームふくしま

制作した絵本などを手に、副読本への掲載を希望するNPO法人チームふくしまのメンバー

中学公民の副読本に採用

絆の広がり期待

本誌の副読本に掲載された「福島ひまわり」は、福島県と京都府の中学校公民の教科書副読本「ビジュアル公民2014」に掲載された。この活動を通じて、福島と京都のつながりが広がると期待されている。

プロジェクトは、同プロジェクトの副読本に掲載された。この活動を通じて、福島と京都のつながりが広がると期待されている。

「里親 全国で10万人超

教科書掲載が報道されました(十月五日、福島民友新聞)

プロジェクト参加学校受賞歴

- ◆福井県鯖江市立待小学校
 - ・復興庁主催 Revive Japan Cup
 - カルチャー部門 ミュージック グランプリ
 - ・第28回時事通信社 教育奨励賞 優良賞
- ◆広島県立向原高等学校
 - ・ブルデンシャル生命保険主催
 - 第16回ボランティア・スピリット賞 中国・四国ブロック コミュニティ賞
- ◆岩手県立遠野緑峰高等学校
 - ・平成25年度農業クラブ東北連盟大会 優秀賞
 - ・ブルデンシャル生命保険主催
 - 第17回ボランティア・スピリット賞 北海道・東北ブロック ブロック賞
- ◆福島県立猪苗代養護学校
 - ・福島民友新聞社主催
 - 第46回 花いっぱいコンクール 奨励賞
- ◆東京都昭島市立多摩辺中学校
 - ・平成25年度昭島市青少年問題協議会 善行表彰



チェルノブイリ博物館でも上映された立待小の「ひまわり」の映像

福井県鯖江市立立待小学校の児童が、本プロジェクトの応援ソングとして作詞、合唱する「ひまわり」が、復興庁主催の二〇一三年度Review Japan Cupのカルチャー部門ミュージックで、グランプリを受賞しました。「助け合い、つながり合

うことの大切さ」を伝えていく点が高く評価されました。児童らは、二〇一一年から東日本大震災の被災地を支援しようとして、ひまわりを栽培する活動を展開してき

立待小による応援ソング「ひまわり」グランプリ受賞

ました。その活動の様子を児童が詩につづり、担任の岩堀美雪先生がまとめたのが、今回受賞した歌「ひまわり」です。多くの児童の合唱で届けられるこの曲は、多くの人たちの心に響き、ロックバンドおかんによるカバーをはじめ、幅広い年代に愛されています。国内だけでなく海外でも歌声が広がっています。二〇一三年、ウクライナの国立チェルノブイリ博物館で行われた特別展「福島への祈り」。本プロジェクトでは、立待小学校の児童らが歌うひまわりとメッセージをビデオレターにして博物館に提供。記念式典には、岩堀先生が出席し、子どもたちが歌う映像を紹介しました。歌詞を日本語からロシア語に翻訳した字幕も映像に添えており、歌を聴いたロシアの人々は感動の面持ちで映像を鑑賞しました。



海外での取り組みを報告します

福島ひまわり里親プロジェクトの理事は昨年、国内だけでなく海外にも飛び出しました。世界各地から寄せられたご支援に感謝するとともに、「福島は今」や本プロジェクトの内容を紹介しました。

全国の想い ニューヨークへ

理事 吉成洋拍



ニューヨークでも広がる「福島ひまわり」

二〇一三年十月、アメリカ最大の都市ニューヨークにて「JAPAN BLOCK FARE」というイベントが開催されました。私は理事を代表して(自腹で、笑)このイベントに出席し、福島ひまわり里親プロジェクトの活動内容を紹介してきました。

会場はニューヨークの中心街マンハッタンで、なんとブロードウェイ93番街の広い道路を歩行者天国にして開催されました。一日で三万人のニューヨークが集まったイベントで、とても有意義な一日でした。法律の問題で「ひまわり」は持つていきませんが、アメリカ在住の方が、私たちのプロジェクトの活動内容に興味を持ってくださいました。

基本的には英語で上手に伝えるほどの語学がなかったのですが、事前に英語の字幕を入れたひまわり里親プロジェクトの紹介映像と、立待小学校の児童による「ひまわり」の歌の音楽を使用し、DVDにして展示会場で映しました。今や、「FUKUSHIMA」という言葉を知らない人はいないくらい、たくさん質問や意見も頂きました。予想以上に多くの方々に興味を示していただき、またたくさん励ましの言葉や思いやりあふれる気持ちに触れ、言葉の壁を越えて、「絆」を感じることができました。感謝。



▲農理事の四コマ漫画です



柏屋で今夏、限定販売予定の銀賞受賞のスイーツ「ルーロ・ソレイユ」

柏屋でこの夏、限定発売へ!

ロールケーキ日本一を競う「第2回スイーツコンテストROLL-1(ロールワン)グランプリ」がこのほど開催され、郡山市の柏屋の八代優さん作「ルーロ・ソレイユ」が銀賞を受賞しました。当プロジェクトのひまわりを通じた福島への思いや絆をイメージした鮮やかな黄色が、スイーツのさわやかさを表現しています。柏屋でこの夏、限定発売予定です。

プロジェクトのひまわりを題材にした
ロールケーキが銀賞受賞!


たびくま^{くん} と ^{はかせ}ひまわり博士 ^{せんせい} さくま先生 のひまわりの育て方 ^{そだ} ^{かた}







全国のみんなから種とお便りが届くたびくまポスト。手紙と一緒に、仲間たちからひまわりの育て方について、たくさん質問も届いています。でも、ひまわりについて知らないことばかりのたびくまくん…


すると福島ひまわり博士こと、さくま先生が、教えてくれました!





ひまわり博士
さくま先生 


-  **Q** プロジェクトのひまわりはなんて種類?

A 「ハイブリット・サンフラワー」
-  草丈 150cm 前後で、倒れにくいのが特徴だない!
-  150cm くらい
-  **Q** ひまわりの花が咲くまでは、どれくらいかかるの?

A だいたい60日くらいかかるって教えてもらったよ!
-  **Q** 種まきはいつまで出来るの??

A 場所によってちがうない!
-  種まで取れる花が育つ時期は…

北海道：6月下旬 / 東北北部：7月中旬
 東北南部：7月下旬 / 関東・中部・近畿・中国・四国：8月中旬
 九州・沖縄：8月下旬
-  **Q** ひまわりをながーく楽しみたい!

A 時期を少しずらして種まきをする、
-  長い間ひまわりの花を咲かせることが出来るんだって!

「子どもたちの ”こころを育む活動”」 奨励賞受賞

福島ひまわり里親プロジェクトの活動が、公益財団法人パナソニック教育財団(東京都、遠山敦子理事長)主催、文部科学省後援の「子どもたちの”こころを育む活動”」で、奨励賞を受賞しました。

この賞は、未来を担う子どもたちの”こころを育む活動”に貢献している団体の活動を表彰するものです。

全国で多くの子どもたちが参加していること、離れていても福島を支援したいという多くの想いとプロジェクトが合致し、活動が広がっていること。また、学校同士の交流など、活動が発展していることが認められ、選定されました。



山折理事長から表彰状を受ける半田理事長(右)

12月18日付 福島民報 記事

〈受賞詳細〉

子どもたちの“こころを育む活動” 奨励賞

主催…公益財団法人パナソニック教育財団

協賛…東海旅客鉄道株式会社 / トヨタ自動車株式会社 / パナソニック株式会社

後援…文部科学省 / 読売新聞東京本社



受賞したチームふくしまのメンバー

NPO法人チームふくしま会長 鈴木厚志 インタビュー

— 今回の受賞について感想をお聞かせください。

パナソニックという大企業からの表彰に、最初は驚きましたが、知らない間に、里親さんの活動を見て下さっている人がいる、応援して下さいたい人がいることも知りました。まさに、我々が大切にしていく理念をご理解頂いた瞬間を感じました。

— 子どもを支援する活動が評価されたことについては、どう思われますか。

私たちの活動は、土にひまわりの種をまくということですが、実は、子どもたちの心に種を巻いていたのかもしれない。心にまいた種は、まだ花が咲いていませんし、もしかすると、人によつては咲くことはないかもしれません。このあとは、子どもたち自身の行動、決断、出会いによって、肥料や水をいただき、花を咲かせるのだと思います。それは、十年、二十年も先の話になるでしょう。ただ、彼らが大人になった時、for you for Japan、つまり、世の為、人の為になることを経験していたと知ることになるでしょう。未来を担う若い世代が、良い種をまけばまくほど、必ず日本が良くなると信じています。



— 里親さんに一言お願いします!

今回の受賞は、里親の皆さんの代表として、たまたま、NPO法人チームふくしまが頂いたものです。実際は、里親さんや、皆さん一人ひとりの取り組みが認められたということです。『一粒の種をまくことが、これからの日本を必ず良くしていくのだ』と誇りを持って、堂々と取り組んでいきましょう。

— 今後について教えてください。

プロジェクトは四年目を迎えます。新しい取り組みも行うことになるでしょう。しかしそれ以上に、今まで大事にしてきた「for you for Japan」という理念を軸に挑んでいきます。私たちが忘れてならないのは、最初に種を袋につめたあの時の想い、そして種を買ってくださった里親さんの想い、全国の里親さんから福島に種が届いた時の感動です。この初心を大切に、そして思い出し、見つめ直しながら、まい進していきます。これからも、感謝と理念、未来を思う気持ちを忘れず進んでいきます。ありがとうございます。

編集後記



「福島ひまわり里親プロジェクト」学校教育教材の開発を進めています!

本プロジェクトでは、主に学校の授業や

社会活動で活用していただけるよう、現在、学校教育教材の開発を進めています。生命を大切に思う気持ちや、感動する心、防災・安全意識の向上、学校・家庭・地域の連携などに本プロジェクトを活用していただくことを目的としています。里親としてひまわりの栽培、種の収穫、ひまわりを

通じた地域おこしや交流事業などに取り組んでいただいている全国の小中高校、地域や社会で活動する団体、企業での具体的な活動事例を交えながら、わかりやすい内容でまとめていきます。

学校・社会教育の現場で、「生きる力」を育む本プロジェクトをぜひご活用ください。